

朝日小学校（5年生）

こだま組サクラの輪切で楽しいコースター作り

1月中旬、朝日小学校から、地元の木を使って、何か楽しい記念作品を作りたいと相談をうけ早速、コースター用に切りためてあった、サクラの輪切りを使って簡単コースターの作り方と輪切りをプレゼントしました。

2月9日、5年生一同から、嬉しい礼状が届きました。

コースターは子供らしい なかなかの出来栄です。



森林センター 一様へ
このあいだは 桜の木を分けて
もらい ありがとうございます。
おかげで 楽しくコースターを作
ることができました。
これからお世話になります。その
時は、よろしくおねがいします。

五年こだま組 一同

知床の木

トドマツ

トドマツはエゾマツとならんで北海道を代表する針葉樹の仲間です。

トドマツとエゾマツの違いは、トドマツは幹が灰白色で滑らか、葉の先は2つに分かれています。一方、エゾマツは幹が黒褐色で鱗状、葉の先は尖っています。

トドマツの語源はアイヌ語のトドロップにもとづくもので、漢字で書くと木へんに段と書いて「榎松」トドマツとよびます。これはトドマツの枝が毎年一段ずつ輪生することからこの漢字が当てられたとおもわれます。

北海道で山に植えられている木（造林木）の多くはトドマツで、建築材として多く用いられ柱や梁、板材などに使われています。

その他に、モミが無い北海道ではクリスマスツリーにこのトドマツの若木を使っています



知床の森から

平成13年3月発行 第71号

北海道森林管理局北見分局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



シンボルマーク「ゲラちゃん」

知床は今

森を歩いていると、木の幹にぽっかりと穴があいて樹洞になっているのを見かけます。樹洞は枝が折れるなどして、そこから腐れがはいり木の中心が空洞になったものです。

その樹洞は小動物達の住み家や隠れ家になったり、鳥達の巣に利用されたりしています。

この2枚の写真は知床の森で出会った印象深い動物達との出会いを撮ったものです。

調査をしていた時のこと、イチイの幹にぽっかりと大きな穴が開いており、イチイの周りには小動物の足跡と糞があったので、もしかして動物達が利用しているのでは？と思い穴を覗いてみると、なんとエゾクロテンもこっちを覗き返していたのです！

お互いに目が合い、お互いにビックリ、思わずカメラのシャッターを切りました。

イベント現場の踏査をしていた時のこと、頭上を素早く横切る影があり、よく見るとエゾ



リスで、写真に納めようと後を追いかけるとイタヤカエデの樹洞の中へ姿を消してしまいました。

最初は気が付きませんでしたでしたが、何か視線を感じ上を見るとエゾリスがジッとこちらを見ていたのです！エゾリスの方が一枚上手でした・・・

樹洞は木の上部まで続いているらしく、上部にある木の幹に開いた穴からエゾリスが顔を出していました。そーっとカメラを構えシャッターを切りました。

森を歩いていると様々な動物達との出会いがあります。この様な出会いがあつてから木に開いている樹洞を見つけては覗き込むようになりました。森の中の穴という穴を全部見ようと思います。



第35回

森

とのふれあい

親子木工体験

第35回森とのふれあい「親子木工体験」を1月13日（土）に開催しました。当日は、斜里町内の親子12組34人が参加し冬休みの工作を作りました。

材料は小枝・木の葉・年輪プレート・海岸の小石・流木等です。

参加者は、センター職員から工作道具、材料の取扱い方、作り方、注意事項等の説明を受けた後、さっそく材料を選び工作を始めました。

今回は、小動物の製作だけでなく、新しく「木の葉のステンドグラス作り」を加えました。黒い紙を切り抜き木の葉や押し花を貼って作ります。初めてにも係わらず、参加者の皆さんには高い関心を示していただき、たくさん作っていただきました。

短い時間でしたが思い思いの作品を親子で作り、完成した自分達の作品に満足した様子でした。



編集室より：

当センターのホームページをたくさんの方に訪問して頂いております。

1月以降すでに5,000件を超えております。これからもよろしくお願いします。

第36回

森

とのふれあい

冬の森・歩くスキー自然観察会

第36回森とのふれあい『冬の森・歩くスキー自然観察会』を2月24日（土）に行ないました。

イベント個所は、斜里町市街地の海岸砂丘林で愛称「発見の森」と呼ばれるオホーツク海を望む国有林です。

当日は、薄曇りの空模様で、風の無い穏やかな日となりました。

知床博物館前に集合した参加者9名は、担当者から観察コースの説明を受けた後、準備を整え出発しました。

コースは針葉樹や広葉樹が茂り、地形は平坦地や傾斜地など変化に富んでいます。

参加者の中には、スキーにあまり慣れていない人もいて、坂などで思うように滑れず転ぶ場面もありましたが、そのたびに周りから励ましの声や、笑いが森の中に響きました。

途中所々でインストラクターから冬の樹木の様子、動物達の様子などの説明があり、熱心に聞き入っていました。



また、森の中で小鳥のさえずりや雪の上に動物の足跡も見られ、雪の森に一層見せられた様子でした。

コースを進むにつれ、スキー操作も上手になり、インストラクターの説明にも余裕を持って聞き入っていました。

約3.8kmのコースを2時間少々かけ、心地よい汗をかきながら雪の積もった冬の森を観察し、無事『発見の森』に別れを告げました。

